



WAVE 49号

ウェーブ

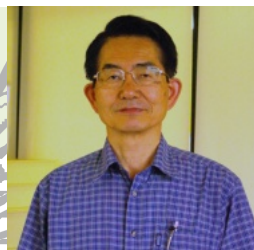
2012年6月

3 研修報告

4 INFORMATION

必要なところに 風が吹き渡るように

支縁社会に向けた新たな実践



関 博人 理事長
ひとつぶ
社会福祉法人一粒



今、社会で不安を抱えながら暮らす方は少なくありません。高齢であったり、障がいを持っていたり、若くても正規雇用の道がなかったり、思うに任せない生活で将来の不安を抱える方の多い時代です。そんな不安社会を支援社会に変え、誰もが生き生きと暮らせるまちをつくらうという動きも少しずつ増えています。鴻巣市の吹上富士見地域で複合福祉施設の運営を計画し、そこでワーカーズ・コレクティブとの提携を考える社会福祉法人一粒の関理事長に寄稿していただきました。

そこで暮らす方の寄る^{よる}辺^べとなるために

私たちは、埼玉県鴻巣市にある主に知的障害のある方のケアホーム(定員 35)、授産事業(定員 16)、重度通所事業(定員 50)、相談支援センター、療育事業、放課後等デイサービスを設置、運営している法人です。障がいがあっても一人の人間として尊重されること、働くことを通して自立すること、施設ではなく住み慣れたまちで共に暮らすこと、一粒はそこに暮らす方の寄る辺となって支えることを願い、これを運営の基本にしています。

団地再生をめざす「地域共生プラザ」構想

鴻巣市吹上富士見地域には、埼玉県住宅供給公社が、昭和 50 年代から造成した分譲型住宅団地 1,050 戸があります。その中心にスーパーマーケットがありましたが、1 年半前に撤退し現在廃屋となっています。この跡地利用に、公社が鉄筋 3 階建 2,600 m²の複合ビルを建設し、一粒がこれをサブリース(一括借あげ)して、サービス付高齢者向け住宅 32 戸の他、通所と訪問型介護事業所、障がい

者ケアホーム 2 戸 12 室、子育てサロン、よろず相談、集会コーナー、コミュニティショップ等を設ける案を計画中で、来年度オープンをめざしています。

戦後高度成長期に建設された公社公団の団地入居者は今、どこも高齢化し、団地再生は緊喫の課題です。調査によれば、そこに住んでおられる高齢者世帯に共通する不安は、1 に医療、2 に介護、そして孤独孤立に食事・買い物困難とされています。また、家族やコミュニティの縁が薄れ、絆が年々劣化していく時代にあって、地域から離れることなく、日常の暮らしを安定継続するための必要条件は安全、健康、利便、快適をいかに充足させるかです。衣食住と医職充。充実した余暇を含め、暮らしの多様なニーズに即応した生活支援サービスの拠点づくりが、私たちの構想「地域共生プラザ」です。

暮らしの不安を社会サービスで取り除く

そこでは、安全快適な住まいと 3 食の食事提供、24 時間 365 日のコンシェルジェ(御用聞き)サービスと安心見守り態勢、日用の



地域共生プラザ「風のまち」外観図

買い物とその代行、時には理美容サービス、定期的な健康管理、医療・介護・福祉・法律・年金・旅行その他よろず相談と情報提供コーナーなどを効率的に組み合わせ提供します。

従来は、問題があっても家庭内で、お隣りさんやご近所の相互扶助で解決し、事なきを得てきました。こうした暮らしの瑣事を社会サービスに置き換えて、それをいかに安価に信頼できるサービスとして提供できるかが、地域再生の方向ではないかと思うからです。

どの世代にも

そこで生き生きと暮らしてほしい

人口減少は如実な地域の風景となりつつあります。お年寄りだけの街にならない手立ても大切です。子育てに困っているヤングママのサロンが欲しいし、60歳以上でないと、要支援要介護でないと利用できないのではなく、誰もが気軽に利用できる空間、広場、サービスが大切です。そこに住む人が主となる行事、賑わいも地域の元気には欠かせません。

吹き渡る風のように 地域との連携を広めたい

これから、この構想を実施準備する段階にきた訳ですが、この拠点での実践とノウハウを徐々に地域にも広げて行こうと計画しています。ここに集まり、ここから出かけていくサービスを充実させていくには、一法人が独占専従するのでは限界があります。ご近所のパート雇用、地域団体、オピニオンリーダーによるニーズ反映の仕組みを整えるのも欠かせません。連携と協力の支援態勢づくりが、今後の運営の要と肝に銘じています。

この実践から、吹上富士見のまちに爽やかな支援の風がそよぎ、必要なところに必要な風が吹き渡るイメージを大切にしていきたいと願っています。

こうした思いを整理する中で、食事の献立、調理、配食のお仕事を、同じ町内のワーカーズ・コレクティブ「NPO 法人雪花菜くらぶ」様をお願いできないかをご相談しているところです。地元において長年、添加物を避け安心できる食材でお弁当販売を手掛けて来られた姿勢に、大いに共感し、期待するものがあるからです。

ワーカーズ・コレクティブ、後方にある生活クラブ生協の実践は、私たちが手掛けようとする地域再生の担い手として先駆的役割を果たし得るのでないかと認識を新たにしました。今後のご指導をよろしくお願い申し上げます。

生活クラブ生協千葉の実践例

いなげビレッジ虹の街風の村

見学報告

埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会は、社会福祉法人一粒と提携して食事業を担う予定の「雪花菜くらぶ」の事業展開を支援しています。2013年7月のオープンに向け、事業計画、契約、設備準備、人集めなどに協力していく予定です。その一環として2012年5月11日千葉市稲毛区にある「生活クラブいなげビレッジ虹と風」(以下いなげビレッジ)を先行例として見学しました。参加者は連合会委員4名、雪花菜くらぶ2名、一粒3名でした。

いなげビレッジは生活クラブ生協千葉が中心になり作った社会福祉法人生活クラブが、URの園生団地再生事業の1つ、複合福祉施設事業者に応募し採用されたものです。2011年8月にオープ



ワーカーズ「まどれーぬ」の運営する「風の村」の厨房

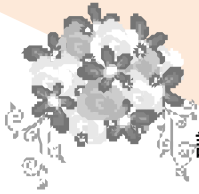
ンしました。建物が2棟ありそれぞれ「虹の街」、「風の村」という名称で、虹の街にはデポやカフェ、地域活動スペースなどがあり、地域に開かれた生活サポートの場です。

風の村は複合福祉施設で、3階がサービス付き高齢者住宅、2階にショートステイ、1階にデイサービス、介護や訪問看護のステーション、診療所、児童デイサービスなどがあります。ユニバーサル就労もすでに行い、一定の成果を上げています。

特に風の村の食を支えるワーカーズ「まどれーぬ」の実践を見学し、福祉の現場での食の大切さや工夫などの様子を聞きました。今後の雪花菜くらぶの参考になったと思います。(福島)

研修報告

共に育ち合う研修はワーカーズ運動を支える一つの要素です。
それぞれの研修から明日に生かすものをつかみ取りましょう。



仲間と働く喜びがある

全体研修
3月31日
79名参加

「協同組合だからできる多様な人々との働き場づくり」

講師 布留川肇子（はつこ）さん（ワーカーズ・コレクティブつどい）

生活クラブ生協の業務を受託する「つどい」は、複数の業務を82名のメンバーで担っています。設立は2006年、設立趣意書には「働くことを通じて世代やハンディを超えたネットワーク構築を目指す」とあります。この設立趣意のとおり多様な人々が助け合って働いています。

知的障がい、精神障がいを持つ人、身体に障がいのある人4名を含めた老若男女の大所帯です。ハンディのある人と働くことを特別なことと考えずに、「ここで仕事をしたい」という人はメンバーとして受け入れて共に育ちあう関係を築いています。

人は誰でも得意とすること、

苦手なことがあり、精神状態もいつも一定ではありません。その延長線上に「障がい」があると捉えています。「つどい」では違いへの配慮と工夫で共に働くことを実現しています。それは障害者福祉といった専門性をもって対応することではなく、人と人、違いを認め合って育ちあいながら仕事をする職場なのです。

もともと協同組合は、必要とする人同士が協同し、お互いの願いを実現し生活や仕事を有利にする団体です。「つどい」は、『働きたい』を集めた協同組合だと感じました。

NPO法人ワーカーズコレクティブ
青いそら 浅草秀子



(全体研修会場風景)

狭山エリア
ビギナー研修
4月15日
24名参加

ワーカーズ歴1年ちょっと。

わからないことだらけだけどおもしろい！

「ワーカーズとは」

講師 井瀧佐智子さん（NPOこの指とまれ！）

事業経営チェックというのを初めて見て、とても興味深かったです。読んでみて、チェックしてみても、ワーカーズというのはこういうことなんだと少し理解しました。

「この指とまれ」の話をついば聞いておもしろかったです。ワーカーズも他のブロックにはいろいろな仕事があるそうなので、違うブロックの話も聞いてみたいです。

クローバーでの仕事のことはその度、クローバーの方々から教えてもらっているけれど、ワーカーズ全体の事はなかなか話を聞くこともないので、今回このビギナー研修に参加できてよかったと思います。

まだまだわからないこともあるので、機会があればまた参加してみたいと思います。

企業組合ワーカーズ・コレクティブ クローバー 柿迫啓子

所沢エリア
経営研修
4月15日
17名参加

逆転の発想、

社会の方を変えていこう！

事業の状況把握・分析そして
課題解決策を考える。

ワークショップ形式で行われた研修は、三人寄れば何とやらで、いろいろなアイデア、多角度からのものの見方、逆転の発想が示され盛り上がりしました。

これを職場に持ち帰り生かしていき、その状況を次のエリア会議に持ち寄ることになりました。

企業組合 お弁当はな
金室八重子



仲間紹介



独り立ちして2年目

自分たちの思いをお弁当に込めて、この1年頑張ってきました。私たちの自慢はまず食材のこだわりです。米は生活クラブの胚芽精米を使い、豚肉は平田牧場、さらに野菜は地元無農薬のものを使っています。味付けは濃くならないように、なるべく食材の旨味を出すようスタッフ一同考えながら作っています。また、サービス「よりあいの家くるみ」の昼食も担っていて、通ってくる利用者さんたちにも大好評です。

私たちは独居あるいは日中独居の高齢者や障がい者、さらにはいろいろな悩みを抱えている人

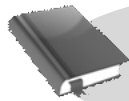
たちの橋渡しができればと思っています。そしてお弁当を通して多くのメッセージを届け、「誰もがこの町に住んで良かった」と思える町にしたいと大きな夢を抱いています。

自分たちが進んでいくであろう道がいつか明るく開けていくことを願いながら、今の足元を固めていなくてはと思い日々進んでいます。ワーカースの働き方や、こだわりを持って進んでいくことの難しさと格闘しながらこれからも頑張っていきます。

キッチンそら豆 松本浩美

キッチンそら豆

大里郡寄居町桜沢 491-7
よりあいの家くるみ内
・048-581-7737



ワーカースをもっと知りたい、
もっと広めたい。
そんな人たちのための冊子

「ホップステップワーカース」

起業のためのガイドブック
改訂新版！埼玉 W.Co 連合会発行 500円

「地域で暮らし続けるために 共に支える

ワーカースコレクティブの福祉事業事例紹介」
WNJ発行 500円

WNJ：ワーカース・コレクティブネットワークジャパン（全国組織です）

ワーカースってなに？

◎出前講座◎

講師派遣します

2時間 1万円＋交通費

（関係団体は5千円）

お問い合わせは
事務局まで。



あとがき 「専業主婦」からワーカース・コレクティブのメンバーになってはや7年。経済的には夫の扶養家族に甘んじていますが、まがりなりにも社会と関わっている自覚や、地域貢献への自負、協同して事業を営む意味を感じながら、余裕ある時間をまた経済活動とは無縁の活動につぎ込みます。いろんな無償の活動があるものですが、今年は人形劇フェスティバルに参画です(^ ^)/(ふ)

ワーカース・コレクティブとは、経営と労働を自主管理・自主運営する主体的な働き方で、地域に開かれた労働の場を作り出すものです。

発行・・・埼玉ワーカース・コレクティブ連合会

1部 100円

発行責任者・・・後藤成美 編集・・・広報チーム 佐藤/福島/齊藤/大塚

事務局 〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋1-5-3 ひゅうまんポスト内 電話/FAX 048-844-0221

<http://saitama-workers.com/>